

長野便教会 会報

ひとつ拾えれば ひとつだけきれいになる

令和2年4月13日(月) 号外

1 復興に向けて One NAGANO

令和元年10月12日(土)に日本に上陸した台風19号によってもたらされた記録的な大雨により、関東・甲信地方や東北地方では翌13日の未明にかけて甚大な被害を受けました。あの日か

ら今日で半年が過ぎました。当地、長野では千曲川が長野市穂保で決壊し、大規模な浸水被害が発生しました。あの日の朝は、全国各地の掃除に学ぶ会や便教会の関係の皆さまから、「大丈夫でしたか?」「何かお役に立てることがありますか」などと、たくさんのご連絡をいただきまして、ありがとうございました。おかげさまで、小布施掃除に学ぶ会と長野便教会の関係者の自宅や学校は大きな被害はありませんでしたが、長野市立豊野中学校はこの写真のように、校名の看板の「中」の字がつかるくらい(1.5 ~ 2 mほど)浸水してしまいました。豊野中学校は、私たち長野便教会にとって「長野県中学校清掃サミット」の記念すべき第1回開催校ですから、他人事とは思えません。居ても立ってもいられず、何かお役に立てないかと動いたところ、浸水から一週間後の10月20日(日)に、8名で豊野中のお掃除に行かせていただくことができました。下の写真はそのときのものです。(左は移動黒板、右は体育館1階の窓ガラスを撮影)



この高さまで水がきた



このときのことを、豊野中学校で新卒の教員としてのスタートを切った、滝澤直子先生にまとめていただきました。

廊下の輝きを再び!

須坂市立墨坂中学校教諭・滝澤 直子

2011年3月。東日本大震災が起きたその数日後、できたての豊野中学校体育館で卒業式が行われました。卒業生は、私が初めて担任を受けもった学年の生徒たちです。生徒たちは、慣れ親しんだ旧校舎へ別れを告げ、中学校生活の後半をプレハブで送りました。文化祭は近隣の小学校の体育館を借り、生徒総会や生徒集会は近くの福祉センターの部屋をお借りして、不便な中でも精一杯活動した生徒たちでした。最後まで、新校舎には入ることはできませんでしたが、「せめて卒業式だけでも新校舎で」と工事を間に合わせてもらって臨んだ卒業式でした。初めて受けもった生徒たちが卒業していく姿にこみ上げるものがあり、涙、涙の卒業式でした。ですからこの体育館は私にとって、馴染みはないけれど、生徒の巣立ちを見送ったとても思い出深い体育館なのです。

その豊野中学校の体育館と新校舎が、台風19号で深刻な浸水被害に遭ってしまいました。台風から1週間後、長野便教会の仲間と共に豊野中学校の復旧作業に参加しました。小布施橋を渡り豊野地区に入ると景色は一変しました。いわゆる災害ゴミが至る所に散乱し、町全体が土

ボランティア受付

本日はありがとうございます

①受付け名簿に名前を書いて下さい。
なお 地域の方は地区名
学校関係者の場合は学校名をお書き下さい。

②トイレは北校舎1階のトイレをご使用下さい。

③お水を用意してほんの一本お借り下さい。

1/230 はじめ会
ボランティア説明会
こちらにご覧下さい

豊野中学校

ぼこりで景色が震んでいるようでした。中学校までの道すがら「ああ、あそこは〇〇さんの家だ」「この先には〇〇くんの家があるんだ」「〇〇さんは、子どもを育てているんだよな、どうしているんだろう」と生徒の顔が浮かんできて、とても苦しい気持ちになりました。

豊野中につくと、体育館の外通路にうず高く積まれたゴミの山が目に入りました。予想以上にものすごいゴミの量でした。中学校の中から運び出されたものだけではなく、洗濯機や自転車など、数日前までどこかの家庭で使われていたであろう家財道具も流れ着いていました。

私たちは、校舎1階のトイレ掃除を行いました。校舎の中は泥まみれの状態かと思っていましたが、自衛隊による高圧洗浄がなされており、一見すると目立つた汚れはありませんでした。しかし、便器のふたをはずすと泥がびっしり詰まっていたり、泥水が部品の中に溜まつたりしていました。それを一つひとつ拭き取りながら、「どうか、一日も早くこの校舎に生徒が戻って来られますように」と願って、きれいにしていきました。

高圧洗浄で洗い流された廊下の床は、ワックスが剥げてボロボロでした。この床を生徒たちは、膝をついて手首を返す、あの独特の雑巾がけの方法でまた磨き上げていくのでしょうか…そんなことを考えていると、プレハブ時代にベニヤ板の廊下を生徒と雑巾がけしていたことが思い出されました。特別棟へ向かうその廊下は、ビニールシートで防風されているものの、夏は暑く、冬は寒い場所でした。そんな中を毎日毎日雑巾がけしていた生徒たち。一年間続けると、ベニヤは人の影を映すほど光っていました。

先日、台風から3週間を経てようやく豊野中に生徒が戻ってきたことがニュースになっていました。まじめでひたむきで、どんな状況でも一生懸命取り組む豊野中の生徒たちです。きっと必ず、遠くない未来に豊野中の廊下は再び輝き出すはずです。

私も「豊野中、頼むぞ。頑張ってくれ！復活してくれ！」と祈るような気持ちでお掃除をさせていただきました。私は自分の原点を思い出すために、時どき初任校に行ってみることがあるのですが、豊野中は直子先生にとっての原点の学校ですから、なおのことこみ上げる気持ちがあつたと思います。そんな気持ちをグッとこらえながら、まとめていただいたのだと思います。ありがとうございました。

もうひとつ、第1回清掃サミットのときに豊野中にお勤めだった中村明史先生にも、記録を残していただきました。中村先生は我々よりも3日早く、10月17日（木）に長野市の職員として豊野中の復旧支援に入られました。浸水から4日後、通行止めが解除されてすぐですで、我々よりもずっとすごい状況の中で活動されました。それゆえ、この文章をまとめるのにも何をどう書くのか思案していましたが、5ヶ月かけてようやくまとめていただきました。

あれから5ヶ月

長野市立信更中学校教諭・中村 明史

「明日の午後、豊野中に行っていただける先生はいませんか？」

校長先生からそう言われたとき、すぐさま手を挙げました。台風19号による水害によって長野市のいくつかの小中学校は大きな被害を受け、翌日から休校になりました。長野市内の他の学校では先生方が交代で、それらの学校のお手伝いに行くことになりました。その日は学校が休みだったので、午後からお手伝いをする予定でしたが年休をとって午前中から豊野中に向かいました。

長野市立豊野中学校は長野市の北東にある全校生徒300人弱の中規模校です。今年で13回目を迎える「長野県中学校清掃サミット」の第1回会場校としても知られています。自分は今から8年前にこの豊野中に勤めていました。6年間在籍した豊野中ですが、在籍中に校舎の改築が行われ、新校舎になりました。旧校舎の面影を残しつつ、木がふんだんに使われた新校舎。それはとても立派な校舎でした。その校舎がこんなことになるなんて。



「豊野中が大変なことになっている」

以前一緒に勤めていた先生方からそんな連絡をもらいました。何か自分にできることはないか、そう思っていました。

当日、豊野中に向かう車中から見える景色は、そんな不安を増すものばかりでした。道路にはリンゴ畠から流されてきたであろうリンゴが転がり、田んぼのワラのようなゴミが散乱しています。多くの家では家財道具が運び出され、被害の大きさを感じさせました。

そして豊野中。校舎の1階はほぼ水に浸かり、校庭は泥だらけで沼のようでした。水は深いところで2mくらい、自分の身長よりも高いところに水の跡がありました。1階の職員室に入ると、その光景に目を疑いました。机の上にあるパソコンや後ろのロッカーの中の書類もすべて泥だらけ。廃棄することになりました。

午前中の作業は、職員室の書類をビニール袋に詰めて廃棄場所に移動する作業でした。棚からファイルを取り出します。

ラベルが貼られて丁寧に綴じられたファイル。それらを袋に入れる。心が痛みました。書類でいっぱいになったビニール袋はとても重く、運ぶのも大変でした。最初は手で持って運んでいましたが、とても続きません。そんなときある人が椅子に載せて運んでいました。職員室にある脚に車のついた椅子。自分もまねをして椅子に載せて運びました。そして気がつくといつしかみんなが椅子に乗せて運んでいました。職員室の机も外に運び出しました。泥だらけの机。引き出しを全部出して運びました。中には引き出しに鍵のかかっている机もありました。その重たるや…。運び出した机であつという間にいっぱいになったスペースを空けるために、机をまた別の場所に運ぶ。誰もが先の見えない作業に戸惑っていました。

昼食をはさんで午後の作業は、人数も増えて他の場所の作業や運び出したものの洗い出しなどを行いました。職員室だけでなく他の場所も同じように泥にまみれています。校長室には重要な書類が多く、廃棄はできないと言うことでこの日は手をつけられませんでした。家庭科室にある食器類は、とりあえずビニール袋に入れられました。その後廃棄されたのか、洗って再び使ったのか、わかりません。運び出された袋で体育館のまわりはすぐにいっぱいになりました。いっぱいになるとその袋をまた別の場所に移動しました。この頃になると、なにも考えられずただただ「作業」をしているだけ、という感じでした。

1日働いて、全身泥だらけ。汗だくでした。翌日は当然筋肉痛でしたが、それ以上に被災された人たちのことを思うと心が痛みました。当時の教え子の自宅も被災していました。近くには行きましたが、その様子を見るだけでとても声をかけることはできませんでした。

あれから5ヶ月。豊野中やその他被災した学校は再開していますが、豊野中の1階は使用することができず、プレハブ校舎だと聞きました。校舎改築のときもプレハブ校舎でしたが、まさかまた再びプレバブ校舎で生活するようになるとは思ってもいなかつたでしょう。

まだ5ヶ月。もう5ヶ月。感じ方はそれぞれだと思います。あれから5ヶ月経ちますが、あの日のことは忘れません。忘れられません。1日も早くもとの学校、そしてもとの生活に戻ることをお祈りいたします。

私も通行止めが解除されてすぐに豊野中に行ってみたのですが、そこで見た光景はまさに9年前、石巻市や女川町で見た光景そのものでした。「長野県は海がないのだから、絶対に津波は来ない。」そう思っていました。確かに津波は来ないかもしれないけれど、川が氾濫して浸水すると、津波が来たのとまったく同じ光景になってしまうのだということを、今回思い知らされました。

プレハブ校舎での生活はまだしばらく続くそうですが、そこにこの新型コロナ騒ぎで豊野中の先生方も生徒の皆さんも本当に大変な思いをされている事と思います。元の生活に戻るにはまだしばらくかかると思いますが、長野便教会は豊野中をはじめ、被災した学校の児童生徒の皆さんや先生方を、これからもずっと応援していきたいと思います！



そんな思いでいるところに、3月30日に豊野中学校から私のところに電話がかかってきました。「何だろう?」と思って電話に出ると、「太田先生は車が入れるようになって、一番最初に来てくださいました。なので、今年度のうちに一言お札を言いたいと思って…」とのこと。「いやいや、私が勝手に押しかけて行っただけのことですから、お札なんてとんでもないです。」と申し上げました。半年前の大変な状況を考えれば、いつ誰が来たかなんてわからなくなつてもおかしくありません。でも、ずっと忘れずにいていただいた。それだけで感激です。なのに、その上ご丁寧に御札のお電話をいただいたのでした。その電話をくださったのは、豊野中の事務の寮先生です。そして、「私たち長野便教会にとって、豊野中は第1回清掃サミットでお世話になった学校なので、今回の水害のことを号外として記録に残しておきたいと思っている」とお話しすると、「ぜひ、見せてください」とおっしゃっていました。そこで、年度末・年度初めのお忙しいところをご迷惑かと思いながらも、この会報をお届けしました。ただでさえ忙しいのに、豊野中はこの災害からの復旧と新型コロナ対応をしなければなりません。そんな状況にもかかわらず、お返事をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

御礼

長野市立豊野中学校職員一同

日頃より、大変お世話になっております。先生には、災害時のみならず年度をまたぐお忙しい時期に、何かと御配慮いただきありがとうございます。

本校は台風19号に伴う水害により、150cmの高さまで水没し、学校は2週間休校。その後はさらに2週間ほどは3年生と1・2年生が別々の場所で授業を受け、全校生徒が通常授業に戻ったのは1か月以上後でした。校舎の1階は全面的な改修が必要なため、現在は仮校舎（グランドに設置のプレハブ）を利用しながら、まだ少し不便な生活を続けています。自宅が被災した生徒も全校で40人ほどおり、そのほとんどがまだ自宅に帰れず、仮設住宅または親戚の家などから通っています。

けれども、長野便教会の皆様をはじめ、各方面の方々から多大な支援をいただき、元気をもらい、いくつもの課題は残されていますが、生徒・職員一同、困難を乗り越えていきたいと考えておりますので、引き続き暖かく見守っていただければと思っております。

なお、いただきました長野便教会会報他は、改めて皆様方のご協力・ご支援の有難さを感じると同時に、皆様方からの励ましを頼りに今年度秋頃に予定されています、校舎への再引っ越し等を無事遂行できる様、全職員で回覧させていただきます。発行・配布の関係理解しておらず直前に、又、メールでの御礼・ご連絡となり、大変申し訳ありませんが宜しくお願ひ致します。

本校、本日（4月6日）無事入学式・始業式が執り行えましたが、感染予防については、ますます予断を許さない時期です。お体には十分お気をつけてください。



お掃除を終えた皆さんに御礼の挨拶をする豊野中の林理恵校長先生（10/20）

今年度の豊野中が無事スタートできたようで、まずは何よりです。今年度はなかなか先が見通せない部分がありますが、秋には本校舎に戻れそうとのことです。その日が待ち遠しいですね。そして、またいつの日か豊野中でお掃除の会ができたらうれしいですね。

私たちは、失ったものの大きさやそれを取り戻す労力を考えるとき、とかく気持ちが後ろ向きになってしまふことが多いかと思います。でも、そんな中で私たちができるることは、微力ではありますが、決して無力ではありません。こんなときに鍵山秀三郎相談役のお話に出てくる「箸よく盥水をまわす」「ザルで水をすくう」「プールに盆一杯の水を加える」「ひとつ拾えれば、ひとつだけきれいになる」「大きな努力で小さな成果を」「益はなくても意味はある」などの言葉が、私たちの背中を押してくれます。今後とも、復興に向けて「One NAGANO」で頑張りましょう！

〒383-0021 中野市西2-9-2 長野便教会事務局・太田 智明（山ノ内町立南小学校教諭）

携帯電話・090-2238-2934 Eメール・otato2005@yahoo.co.jp

小布施掃除に学ぶ会HP・<http://obuse-souji.com/>